

地域間幹線系統(長久手市)

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果反映状況	事業実施の適切性		目標効果達成状況						複数市町村をまたぐ系統/幹線系統としての役割	事業の今後の改善点		
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間		A	B	輸送量(人)			収支率(%)						
				R3計画			R3実績	平均乗車密度	運行回数	R2実績	R3実績					
日進市	名鉄バス(株)	くるりんばす五色園線	市役所-長久手古戦場駅-市役所	各種調査結果の精査、また、市民委員による検討会等を通じ、部分改正案を作成。またパブリックコメントにて、出された意見から部分改正案の修正を実施。公共交通マップを作成、配布した。	A	事業計画とおりの運行回数が確保されている	B	目標65,700 結果53,975 R2年度見込み値より収支率1%改善となる目標値に対し、R2年度はコロナの影響が10-2月なく、R3年度は年度通してコロナの影響があったため、利用者が減少した。	22.7	19.8	2.0	9.9	10.50	10.70	市町村をまたぐ利用者は月平均3,068人で全体の68%を占める。長久手市をはじめ、名古屋市や豊田市への通勤・通学・通院・買い物の足として幅広く利用されている。	市内巡回バスが幹線交通、福祉交通の両方の役割を担っており、うまく機能していない部分がある新しい公共交通計画案を策定し、パブリックコメントを経て、令和4年度中の計画策定を予定。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	日進中央線	赤池駅~日進市役所~長久手古戦場駅	HP、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行った。GTFSデータの更新や、公共交通マップの作成、配布を行った。	B	緊急事態宣言発令のため始発地を21時30分以降に発車する便109本が運休となったが、それ以外は事業計画どおり運行を実施。	B	目標130,300 結果113,938 利用者数は対目標値87.44%、対前年104.25%となった。対前年を上回った理由として愛知淑徳大学南停留所の利用者増によるもので、大学のリモート授業が通常の授業に戻ったものと考えられる。ただ前々年と比較すると対比81.83%であるため、コロナウイルス感染拡大前の水準まで戻っていない。	61.5	57.0	3.8	15.0	45.64	47.91	市町村をまたぐ利用者は月平均2,640人で全体26.7%を占める。現金、ICSFの定期外86.4%。リニモ駅及び大規模商業施設が近接することから、2停留所のみで長久手市と跨ぐ利用が約3割と相対的に多い。	毎時1本の運行のため、遅延による運行への信頼性を失うと、利用者が離れてしまうことも懸念されるため道路渋滞の影響を最小限に食い止める施策の実施を検討する。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPRほか他市町と連携して利用促進を進める。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	愛知医科大学病院	長久手古戦場駅~愛知医科大学病院~尾張旭向ヶ丘	HP、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行った。公共交通マップを、商業施設や各市主催のイベントで配布した。	A	事業計画とおりの運行回数が確保されている	B	目標54,000 結果44,224 利用者数は対目標値81.90%、対前年97.37%となった。対前年を下回った理由として令和2年10月に運行回数の減便及び、昨年度は、コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が3月~9月の7ヶ月であったが、今年度は1年を通して影響を受けたため年間の利用者数が更に減少したと考えられる。	18.5	16.2	1.4	11.6	16.8	18.60	市町村をまたぐ利用者は月平均2,520人で全体57.5%を占める。現金、ICSFの定期外83.3%。市外から愛知医科大学病院への利用が多い。	開設当初より路線の周知に努めてきたが利用者の増加には繋がっていない。関係自治体や大学、高校と連携したPRが必要。高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPRを積極的に実施し、沿線各市町とともに市広報やイベント等で周知を図る。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	本地ヶ原	藤が丘~愛知医科大学病院~瀬戸駅前	HP、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行った。また、公共交通マップや時刻表を作成し、沿線商業施設等に配布を行った。	A	事業計画とおりの運行回数が確保されている	B	目標117,000 結果77,003 利用者数は対目標値65.81%、対前年85.19%となった。対前年を下回った理由として昨年度は、コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が3月~9月の7ヶ月であったが、今年度は1年を通して影響を受けたため年間の利用者数が更に減少したと考えられる。	41.3	25.9	3.2	8.1	52.19	41.44	市町村をまたぐ利用者は月平均6,030人で全体83.1%を占める。現金、ICSFの定期外86.1%。藤ヶ丘駅から愛知医科大学病院への通院利用が多い。	開設当初より路線の周知に努めてきたが利用者の増加には繋がっていない。関係自治体や大学、高校と連携したPRが必要。高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPRを積極的に実施する。また、沿線市町と協力し、市広報やイベントなどで周知を進める。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バスあさび一号(東ルート)	市役所~イトーヨーカドー前~市役所	市民に対して、店舗等応援情報誌に市営バスの無料利用券を付けて配付し、バスの利用促進と地域経済の活性化を図った。他市への乗継ぎを念頭に置いた公共交通マップを作成し市内公共施設、商業施設等に配布した。	A	事業計画とおりの運行回数が確保されている	B	目標114,000 結果99,824 利用者数が前年度比3.4%増加し、目標の87.6%だった。新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)による緊急事態宣言等による、利用者の外出の機会が減ったが、新しい生活様式に順応したことで、利用の回復につながったと考えられる。しかし、コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていない。	83.0	64.9	4.3	15.1	16.3	15.90	市町村をまたぐ利用者は月平均1,412人で全体8.6%を占める。広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。新型コロナの影響で、利用者が外出を避ける傾向であったため、減少したと考えられる。	着座を原則として運行しているため乗りこぼしが起こる可能性がある。そのため、今後、利用者が増加傾向になるのであれば利用状況に合わせた運行計画を検討する必要がある。使用車両の検討も含めた現状を考慮した運行計画の作成を行うとともに、引き続き利用者が移出支援に向けた計画を検討する。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バスあさび一号(西ルート)	市役所~印場駅~市役所	市民に対して、店舗等応援情報誌に市営バスの無料利用券を付けて配付し、バスの利用促進と地域経済の活性化を図った。他市への乗継ぎを念頭に置いた公共交通マップを作成し市内公共施設、商業施設等に配布した。	A	事業計画とおりの運行回数が確保されている	B	目標132,000 結果105,719 利用者数が前年度比2.1%減少し、目標の80.1%だった。新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)による緊急事態宣言等により、外出機会が減少したため、利用者が減少したと考えられる。特に、高齢者が利用者数の割合を一番大きく占めるため、宣言下では外出を控える高齢者が多く、利用者が減少した。	93.6	72.4	4.8	15.1	14.6	17.00	市町村をまたぐ利用者は月平均1,914人で全体11.0%を占める。広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。新型コロナの影響で、利用者が外出を避ける傾向であったため、減少したと考えられる。	着座を原則として運行しているため乗りこぼしが起こる可能性がある。そのため、今後、利用者が増加傾向になるのであれば利用状況に合わせた運行計画を検討する必要がある。使用車両の検討も含めた現状を考慮した運行計画の作成を行うとともに、引き続き利用者が移出支援に向けた計画を検討する。

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果反映状況	事業実施の適切性		目標効果達成状況						複数市町村をまたぐ系統/幹線系統としての役割	事業の今後の改善点	
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間		A 達成 B 未達成 C 目標の半数に満たず	B	輸送量(人)			収支率(%)					
								R3計画	R3実績	平均乗車密度	運行回数	R2実績	R3実績		
新城市	豊鉄バス	新城名古屋藤が丘線	新城市民病院西～長久手古戦場駅		A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	B	目標13,763 結果10,303 前年度は、新型コロナウイルスの影響による運休・減便をしている関係で前年とは比較できないが、目標に対しては74.9%で目標を達成できなかった。名古屋圏への移動となる為、感染状況により都市部への往來自粛期間もある中、利用者の落ち込みも少なく名古屋への通勤・通学等で必要な方にご利用頂いた。	15.9	10.1	3.5	3.0	21.20	市町村をまたぐ利用者は月平均10,303人で全体100%である。高速乗合バスとして新城市と名古屋市及び長久手市を結ぶ路線で、すべての利用者が市を跨ぐ利用しており広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、新城市から名古屋への通勤・通学や名古屋圏から新城市への観光で利用されている。	輸送量が15.0を切っている。奥三河地域住民への周知を充実させ、利用促進を図る必要がある。道の駅もつくる新城(正面)に乗り入れ、お客様の利便性向上を図る。また、それに合わせ利用実態に合った形でダイヤの見直しを図るほか、イベント等で周知を行う。